

■まち・みち再生計画策定までの経緯

みちづくり整備計画について（平成26年3月策定）

再生計画の検討以前（平成25年度）に、本陣跡地等が沿道に残る国道1号を対象として、「みち」自体が市民に愛される魅力的な拠点となることを目的とする『みちづくり整備計画（案）』を作成しており、この整備計画に基づいた道路拡幅事業を進めています。

平成26年9月：第一回WS（まち語り、みち語り）

・地域の方々の旧東海道への思いや思い出に残る資源を発掘し、これからのまちづくり・みちづくりを考えるワークショップを実施しました。

平成26年12月：第一回検討会

平成27年1月：第二回WS（まち歩きルート検討）

・エリアごとに発展した保土ヶ谷宿のまちについてのまち歩きルートを検討することで、旧東海道に紐づいた資源や課題を再発見・再確認しました。

平成27年3月：第二回検討会

平成27年3月：「まち・みち基本構想」の策定

平成27年8月：第三回WS（まち歩き）

・第二回WSでアイデアが出されたまち歩きルートに参加者の皆さんと点検し、保土ヶ谷宿の特徴や課題について意見交換会を行いました。

平成27年10月：第三回検討会

平成27年11月：第四回WS（交流機能、施設のイメージ検討）

・保土ヶ谷宿エリアに望まれる交流機能のイメージ出しをして、情報発信や交流促進機能について意見を出していただきました。

平成27年12月：第四回検討会

平成28年3月：第五回検討会

平成28年3月：「まち・みち再生計画」の策定

再生計画の策定へ向けた検討



第三回検討会



第三回ワークショップ



第四回ワークショップ

再生計画は地域の皆様のご参加のもとで策定されました。
ご協力ありがとうございました！

発行：横浜市道路局企画課 担当：故島、松丸、三角
問合せ先：（電話番号）045-671-3533 （FAX）045-651-6527
編集協力：横浜市都市整備局都市デザイン室、保土ヶ谷区区政推進課

「旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげる
まち・みち再生計画」を取りまとめました！

◆旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生計画について◆

本計画は、「横浜市都市計画マスタープラン」や「横浜市景観ビジョン」、「保土ヶ谷区歴史まちなみ基本構想」の位置づけや方針を踏まえた上で、市民ワークショップ（以下WS）による地元のニーズを把握・学識経験者による検討会開催を通して、旧東海道の歴史を感じる景観形成や人が集まる場づくりなどの検討を行い、策定されました。

本計画を今後の基本方針として、後世に引き継がれるまち・みちづくりを目指した、まち・みちづくり事業を実施していきます。

詳細は本編・市のホームページをご覧ください。

（市のホームページ <http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/plan/toukaido/hodogayamirai/>）

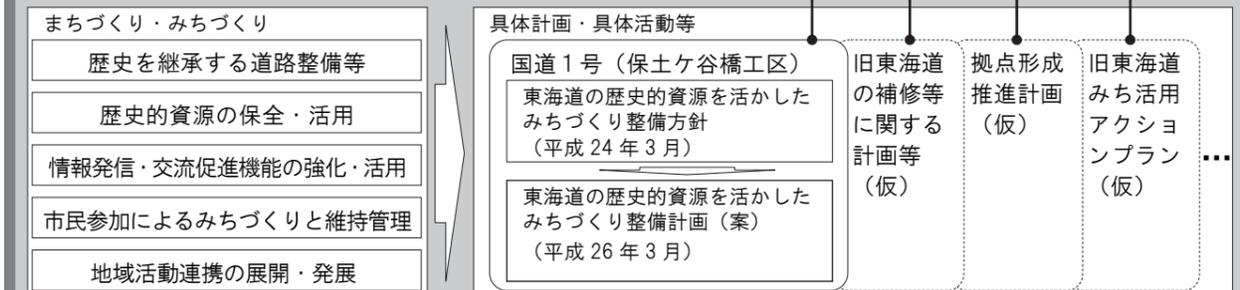
■まち・みち再生計画の位置づけ

まち・みちの再生に向けて

旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生基本構想（平成27年3月）

旧東海道「保土ヶ谷宿」を未来へつなげるまち・みち再生計画（平成28年3月）

今後のみちづくりの具体化・まちづくりへの発展



■まち・みち再生計画の実現へ向けて

国道1号保土ヶ谷橋工区や相鉄線連続立体交差化事業に関連した整備のほか、道路の舗装の更新や修繕時期に合わせた整備により、旧東海道の道筋の連続性を高めていきます。なお、整備にあたっては、基本構想・再生計画に示した趣旨を十分に汲みつつ、各道路の断面や沿道土地利用、各種道路施設等との調整を行い、デザインの納まりを十分に検討して行います。

■まち・みち再生計画の全体構成

序. まち・みち再生基本構想 (平成 27 年 3 月策定)

■まちづくりとみちづくりのコンセプト

『各時代の積み重ねを活かし未来へつなげる“まちづくり”“みちづくり”』

【視点1】“まち”と“みち”の変遷を地域の魅力として継承する

【視点2】地域内外の交流を活性化する

【視点3】まち・みちへの愛着を深め、誇りを高める

1. まち・みち再生の枠組み

歴史を活かし地域とともに作り育てる道筋再生と拠点形成

1) 「道筋」の再生と「辻」の形成によるまちの構成の明瞭化

連携

2) 地域・資源を活かす拠点形成

連携

3) 地域活動の連携のさらなる促進と活性化

連携 活用

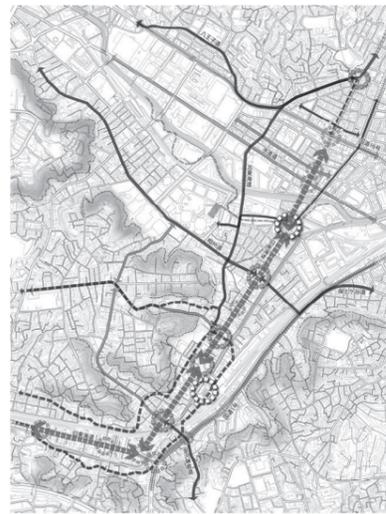
2. まち・みちの再生計画

1) 道筋の再生と道路景観づくり

旧東海道を主軸とし、道筋と資源の歴史の積層を活かした奥行きあるネットワーク形成

(1) 保土ヶ谷宿エリアの軸となる「旧東海道の道筋の連続性を高める」デザイン

(2) 各時代の道をつなぎ、街の奥行きをつくる道筋・辻のデザイン



2) 情報発信・交流促進拠点づくり

生活ゾーンの結節点における拠点機能と地域資源のテーマを活かした交流促進

(1) 4つの生活ゾーンをつなぐ3つの交流結節点の形成

(2) 歴史・地域資源・人材・活動を活かしたテーマ別の交流促進

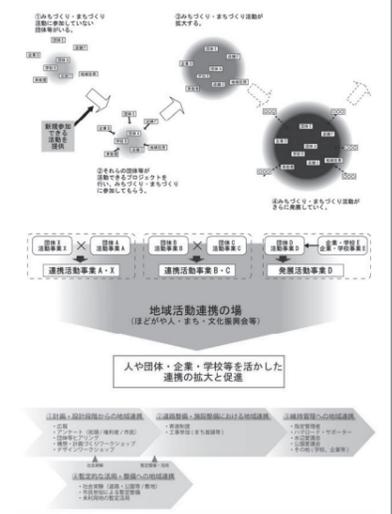


3) 地域活動連携

様々な人が地域活動に関わる機会を増やし、保土ヶ谷エリアに対する意識・愛着を高める地域活動連携

(1) 地域活動とまちづくり・みちづくりの連携強化

(2) 計画・設計段階から整備、運営に至る各段階への地域連携



3. 重点地区の再生計画

重点地区：4つの生活ゾーンとその結節点において、整備の緊急性と周辺への波及効果、他事業の状況等を考慮し選定



保土ヶ谷駅周辺・西口商店街ゾーン

結節点：保土ヶ谷小学校跡地・保土ヶ谷駅周辺

結節点：天王町駅前周辺

洪福寺松原商店街・天王町商店街ゾーン

1) 保土ヶ谷駅西口商店街周辺
旧東海道の道筋を活かした、駅・今井川・地域活動拠点をつなぐ周遊ネットワークの形成



2) 保土ヶ谷駅西口駅前周辺
保土ヶ谷宿周辺エリアの顔に相応しい駅前空間と旧東海道・今井川を活かした分かりやすいまちの構成づくり



3) 保土ヶ谷小学校跡地
保土ヶ谷宿周辺エリアの多様な利用者や世代を繋ぎ、交流の輪を広める拠点機能の醸成



4) 天王町駅周辺
保土ヶ谷宿周辺エリアの玄関口に相応しい駅前空間の象徴性を高める一体的な空間づくり



5) 天王町駅高架下・沿道
天王町エリアの賑わいをつなげ、広げるネットワーク空間づくり



6) 天王町商店街・洪福寺松原商店街
地域の日常生活の拠点となる賑わいの空間づくり



4. 実現に向けて

旧東海道から“まち・みち・ひと”が繋がりが広がるまちづくり・みちづくりの推進

1) 個別事業や補修整備等の連鎖による道筋再生の実現
3) 関係者との十分な調整と継続的な取組みの実施

2) 地域や民間事業者と協働したより魅力的で発展的な拠点の実現